

## 2023 年度 卒業時アンケート結果

### <アンケート概要>

目的	追手門学院大学の教育・学生支援について、卒業生の回答を基に本学の教育改善や学生支援をより充実させていくこと。
対象	2024 年 3 月卒業生
実施期間	2024 年 3 月 19 日～3 月 31 日
実施方法	オンラインでの回答
回収率	82.6% (回答者 : 1,592 人 / 対象者 : 1,928 人)

### <設問>

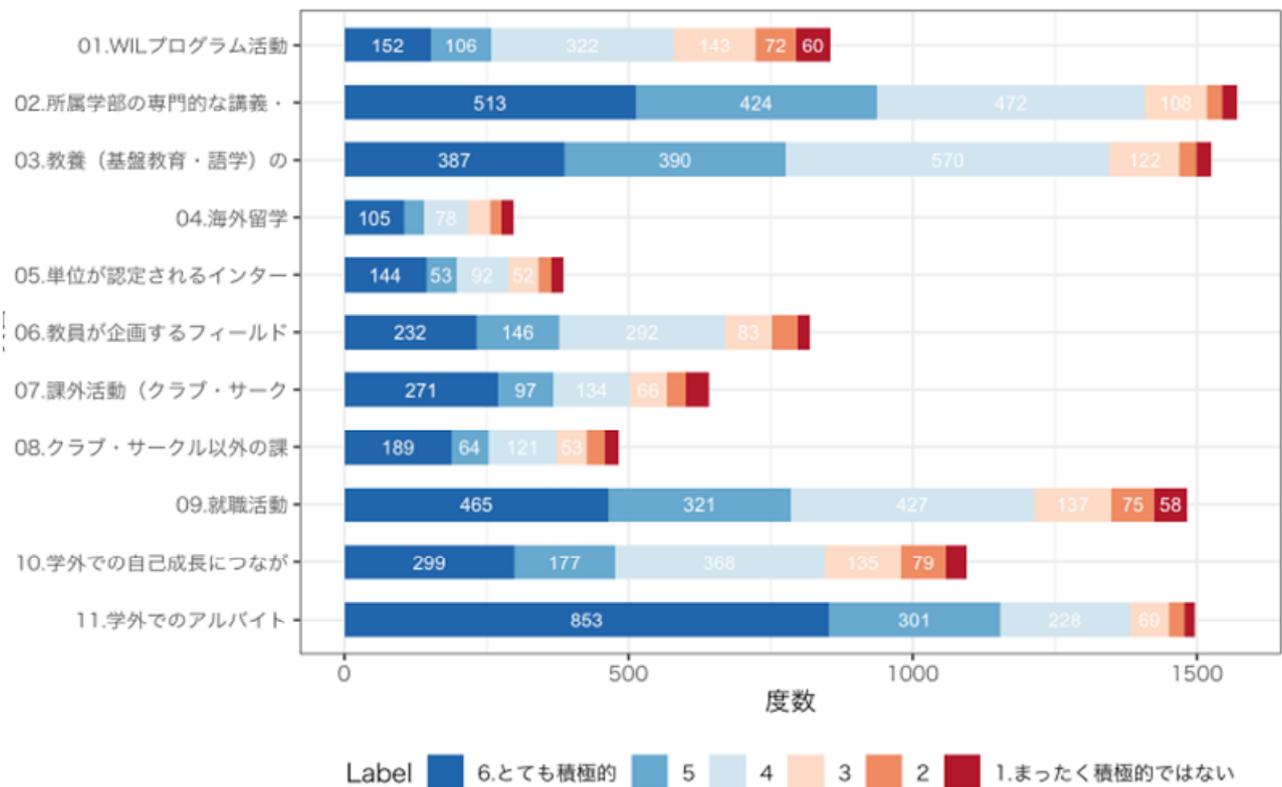
設問番号	項目	質問文
設問 1-1	学業・課外活動等への積極性	以下にあげた項目について、あなたはどの程度積極的に取り組んだと思いますか。
設問 1-2	大学の施設・制度等に対する評価	以下にあげた本学の施設・制度等について、どの程度充実していると思われましたか。
設問 1-3	大学の学生支援・サービスに対する評価	以下にあげた本学の学生支援・サービスについて、どの程度充実していると思われましたか。
設問 2	大学の養成する人材像に対する到達度。	本学での 4 年間の大学生活を通して、以下にあげた各項目(力)について、あなたはどの程度身についたと思いますか。
設問 3	教育理念の理解度	あなたは、追手門学院大学の教育理念である「独立自彊・社会有為」の意味について理解していますか。
設問 4	入学時点と比較したディプロマポリシーの到達度(学部別)	〇〇学部では、あなたが卒業時に身につけてほしい能力として以下のものを教育方針として掲げています。あなたは入学時点と比較してどの程度身についたと思いますか。
設問 5	大学生活に対する満足度	追手門学院大学の学生生活を振り返り、どの程度満足していますか。

## <集計結果>

設問 1-1. 以下にあげた項目について、あなたはどの程度積極的に取り組んだと思いますか。

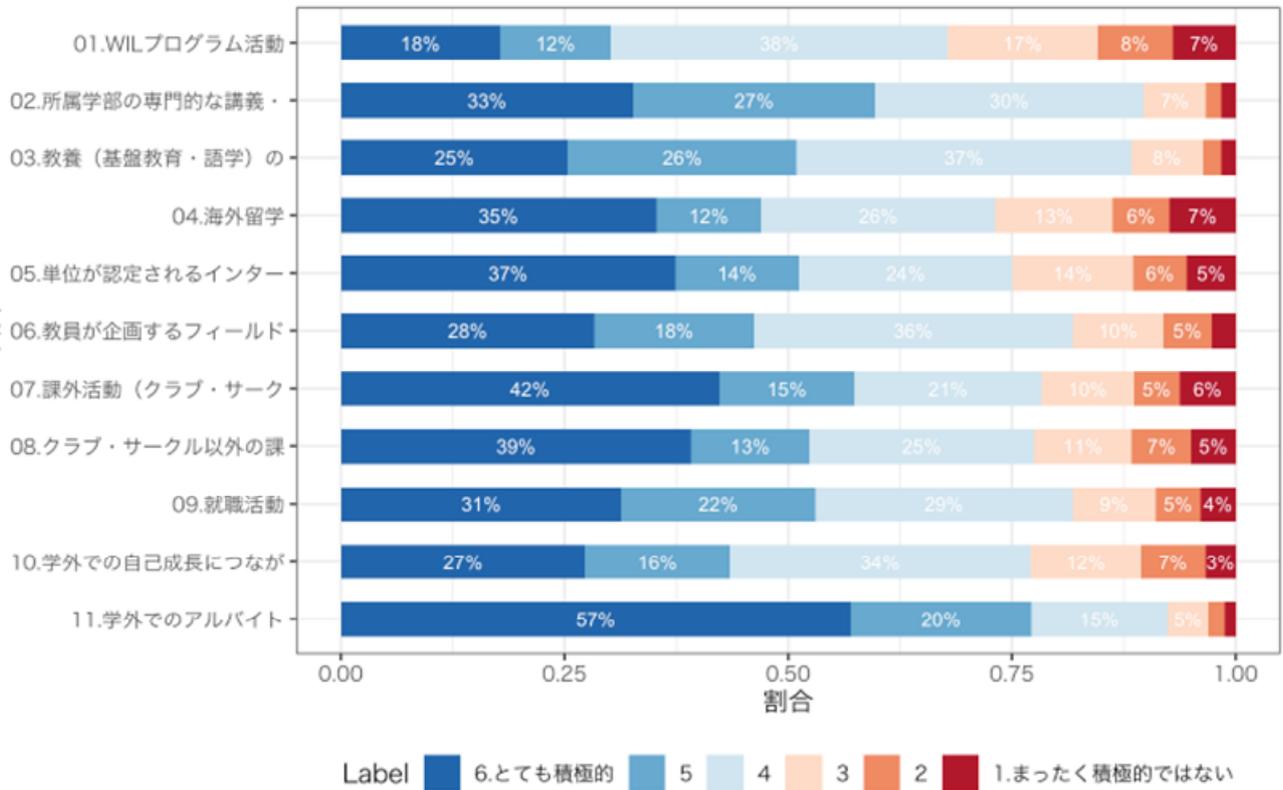
項目	6.とても積極的	5	4	3	2	1.まったく積極的ではない	経験なし
01.WILプログラム活動	152	106	322	143	72	60	736
02.所属学部の専門的な講義・演習・実習・ゼミなどの科目	513	424	472	108	28	25	20
03.教養（基盤教育・語学）の講義科目	387	390	570	122	31	25	54
04.海外留学	105	35	78	39	19	22	1288
05.単位が認定されるインターンシップ	144	53	92	52	23	21	1204
06.教員が企画するフィールド・ワークなど	232	146	292	83	44	22	769
07.課外活動（クラブ・サークル）	271	97	134	66	33	40	944
08.クラブ・サークル以外の課外活動（追風、先輩プログラム、キャンドルナイト、情報SA、E-COスタッフ、オープンキャンパススタッフなど）	189	64	121	53	32	24	1103
09.就職活動	465	321	427	137	75	58	104
10.学外での自己成長につながる活動（資格取得、ボランティアなど）	299	177	368	135	79	37	493
11.学外でのアルバイト	853	301	228	69	27	18	90

【度数分布】



### 【比率】

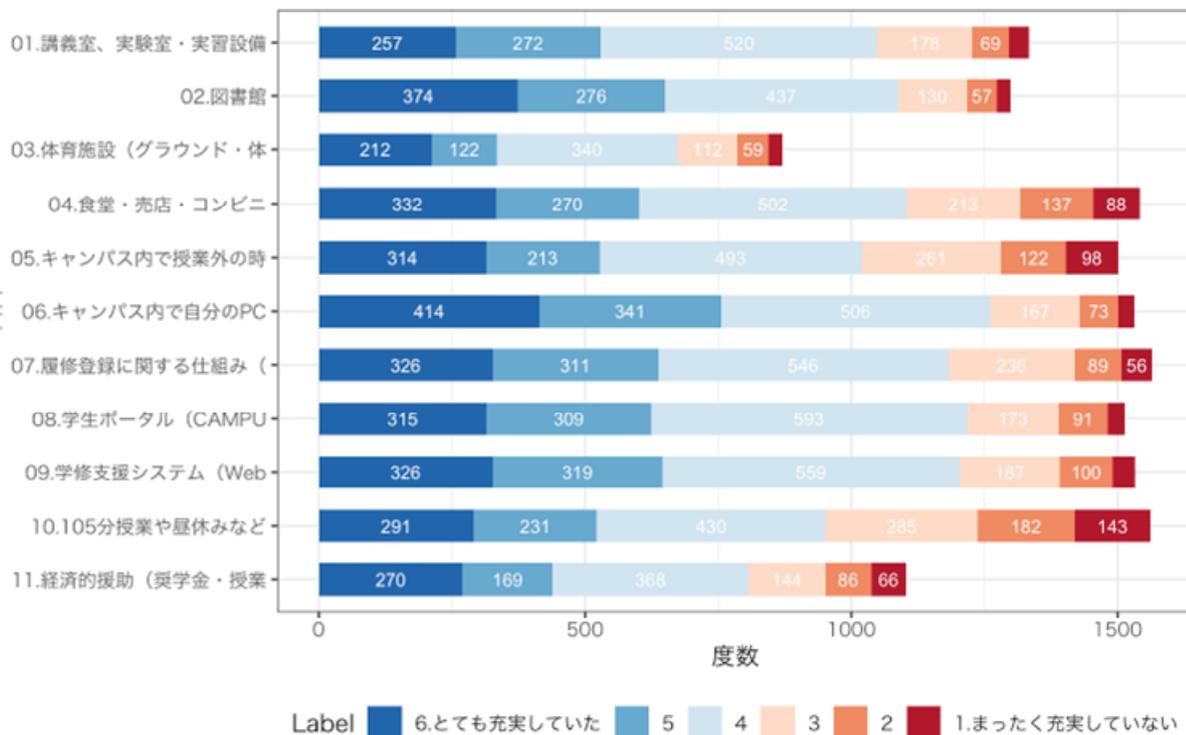
※経験ありの者の中での比率



設問 1-2. 以下にあげた本学の施設・制度等について、どの程度充実していると思われましたか。

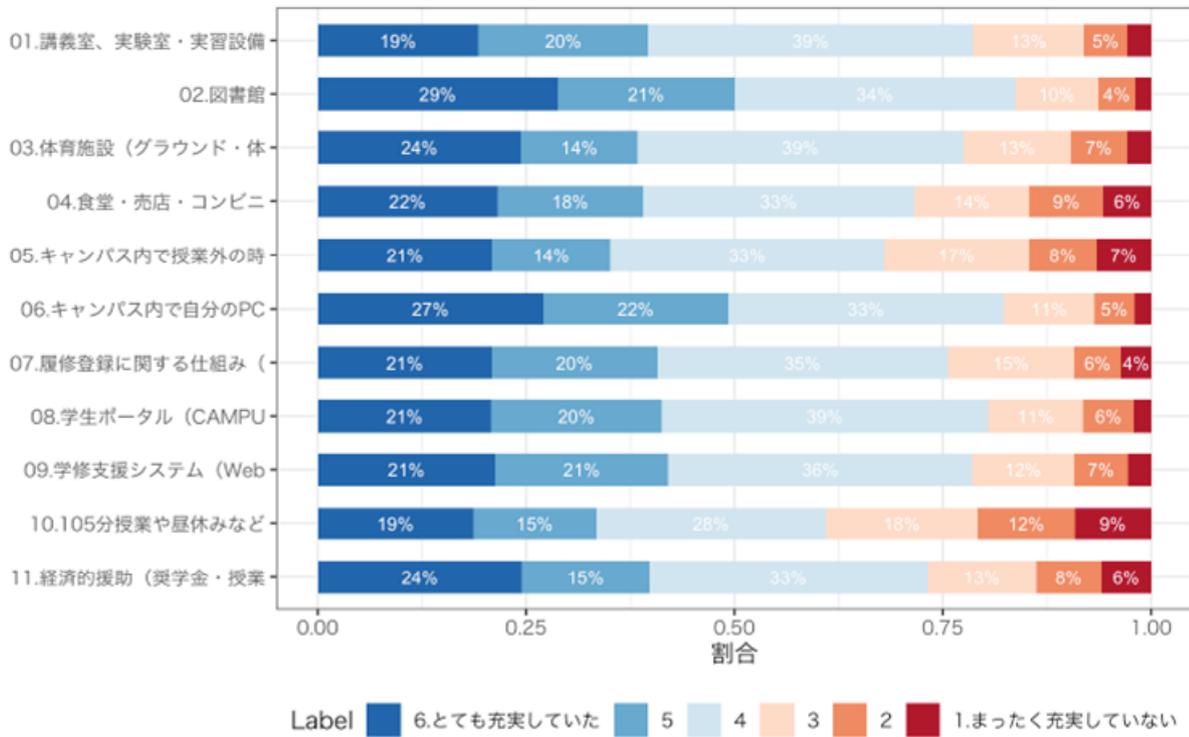
項目	6.とても充実していた					1.まったく充実していない			経験なし
	5	4	3	2	1	0			
01.講義室、実験室・実習設備	257	272	520	178	69	38	254		
02.図書館	374	276	437	130	57	25	284		
03.体育施設（グラウンド・体育館・トレーニングルームなど）	212	122	340	112	59	25	717		
04.食堂・売店・コンビニ	332	270	502	213	137	88	47		
05.キャンパス内で授業外の時間を過ごす場所	314	213	493	261	122	98	84		
06.キャンパス内で自分のPCを使って作業をしたり授業を受ける環境	414	341	506	167	73	31	56		
07.履修登録に関する仕組み（履修のしやすさ、履修関連の情報）	326	311	546	236	89	56	24		
08.学生ポータル（CAMPUS SQUARE）	315	309	593	173	91	32	74		
09.学修支援システム（WebClass・KnowledgeDeliver）	326	319	559	187	100	42	50		
10.105分授業や昼休みなどの時間割	291	231	430	285	182	143	25		
11.経済的援助（奨学金・授業料免除等）制度	270	169	368	144	86	66	485		

【度数分布】



### 【比率】

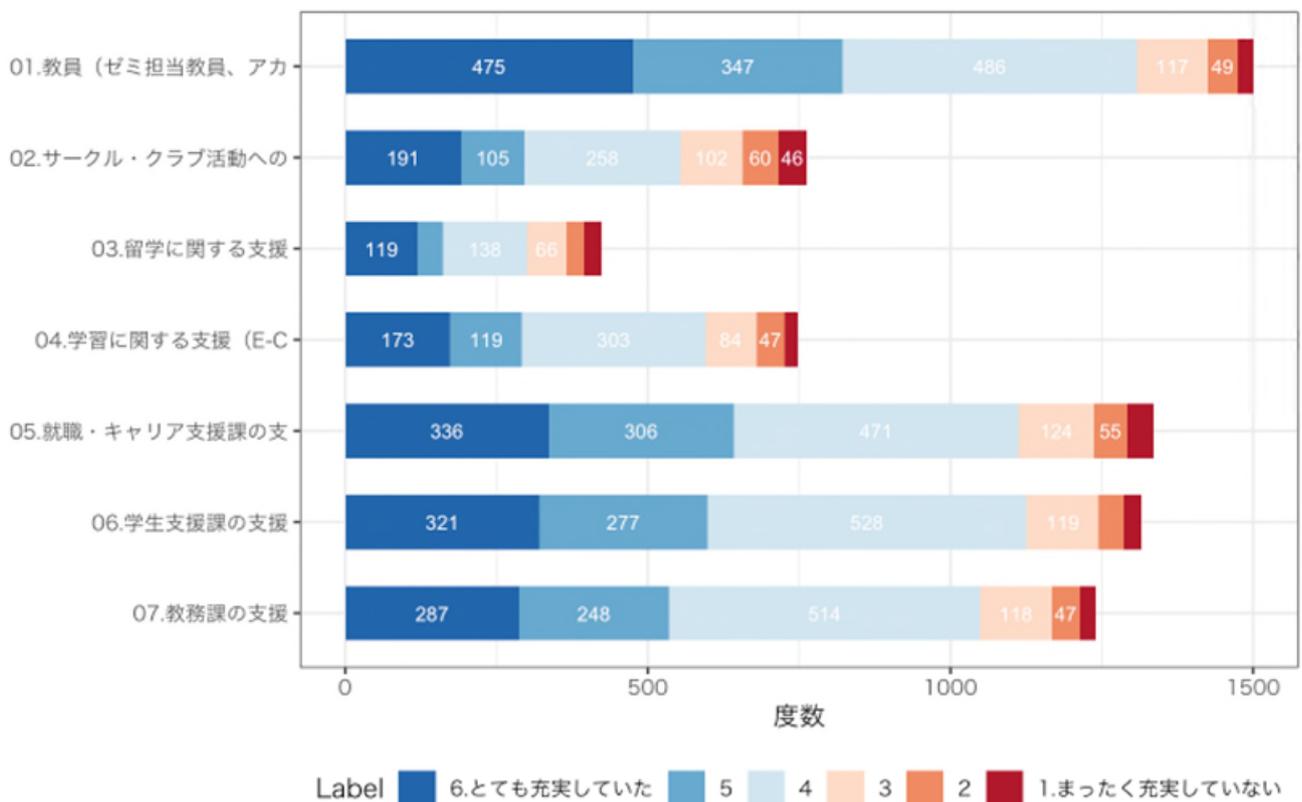
※経験ありの者の中での比率



設問 1-3. 以下にあげた本学の学生支援・サービスについて、どの程度充実していると思われましたか。

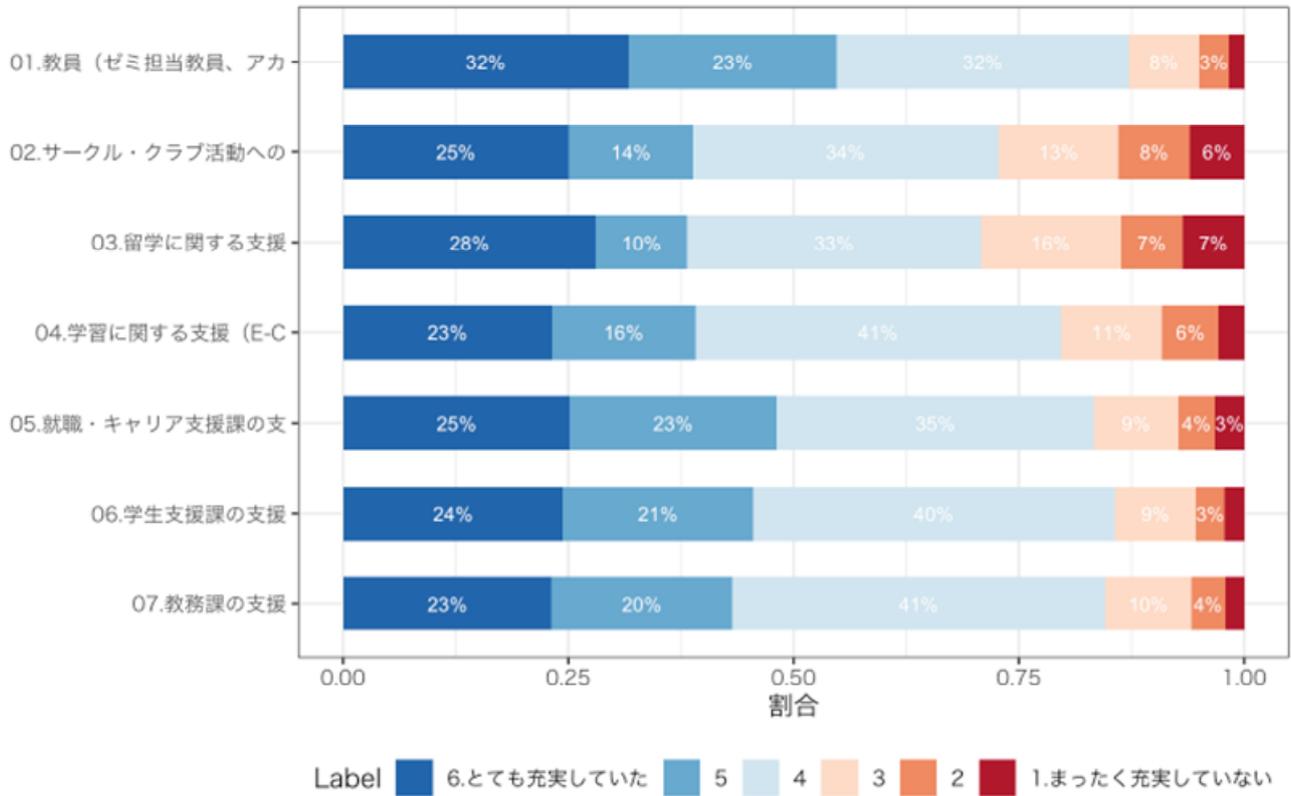
項目	6.とても充実していた					5		4		3		2		1.まったく充実していない		経験なし
	6.とても充実していた	5	4	3	2	1.まったく充実していない	経験なし									
01.教員（ゼミ担当教員、アカデミック・アドバイザー）の助言・支援	475	347	486	117	49	26	86									
02.サークル・クラブ活動への支援	191	105	258	102	60	46	820									
03.留学に関する支援	119	43	138	66	29	29	1162									
04.学習に関する支援（E-CO、ライティング・センター、教職支援センター、学修支援センターなど）	173	119	303	84	47	21	834									
05.就職・キャリア支援課の支援	336	306	471	124	55	43	251									
06.学生支援課の支援	321	277	528	119	41	29	271									
07.教務課の支援	287	248	514	118	47	26	346									

【度数分布】



### 【比率】

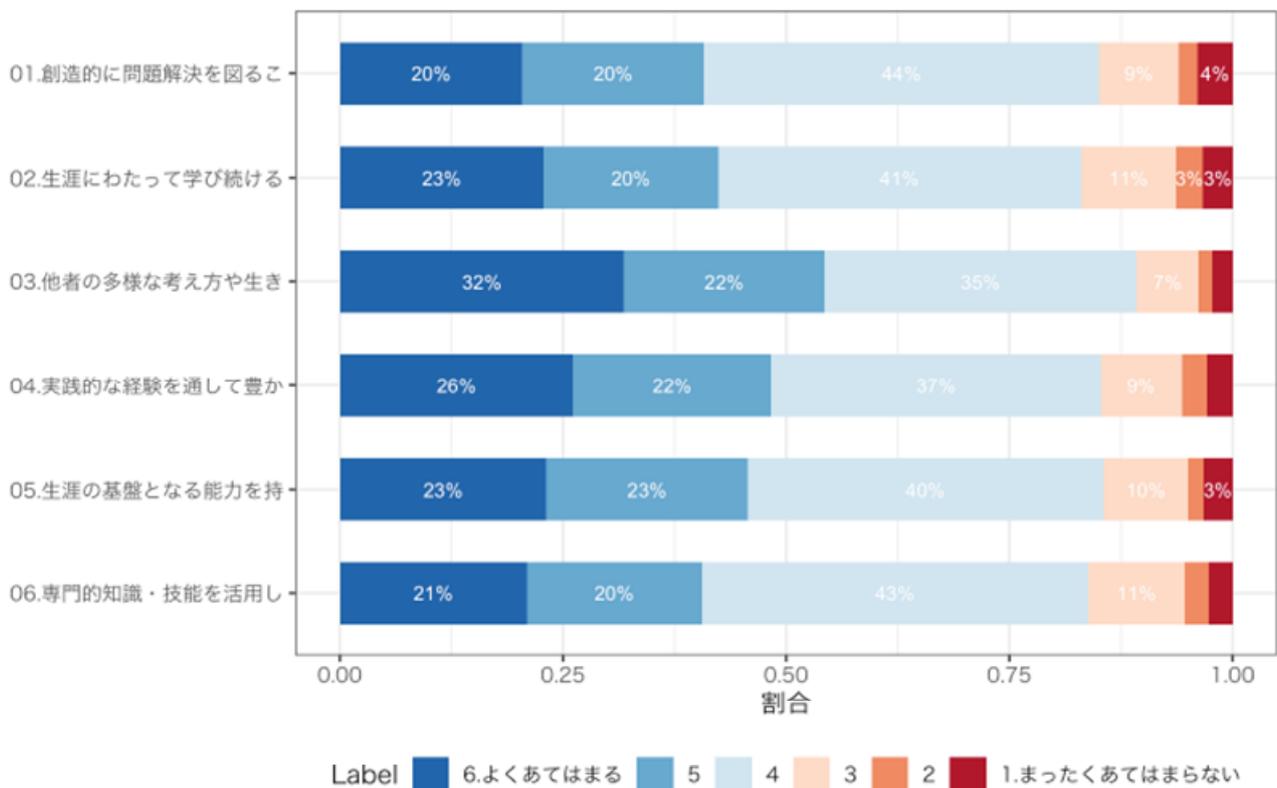
※経験ありの者の中での比率



設問 2. 本学での4年間の大学生活を通して、以下にあげた各項目(力)について、あなたはどの程度身についたと思いますか。

項目	6.よくあてはまる	5	4	3	2	1.まったくあてはまらない
01.創造的に問題解決を図ることができる	324	323	702	141	34	62
02.生涯にわたって学び続ける強い意志をもっている	360	309	641	168	48	52
03.他者の多様な考え方や生き方を尊重できる	504	356	554	110	24	36
04.実践的な経験を通して豊かな人間関係を形成できる	414	352	585	144	44	46
05.生涯の基盤となる能力を持っている	366	356	630	151	26	52
06.専門的知識・技能を活用して思考・行動できる	332	311	687	171	42	43

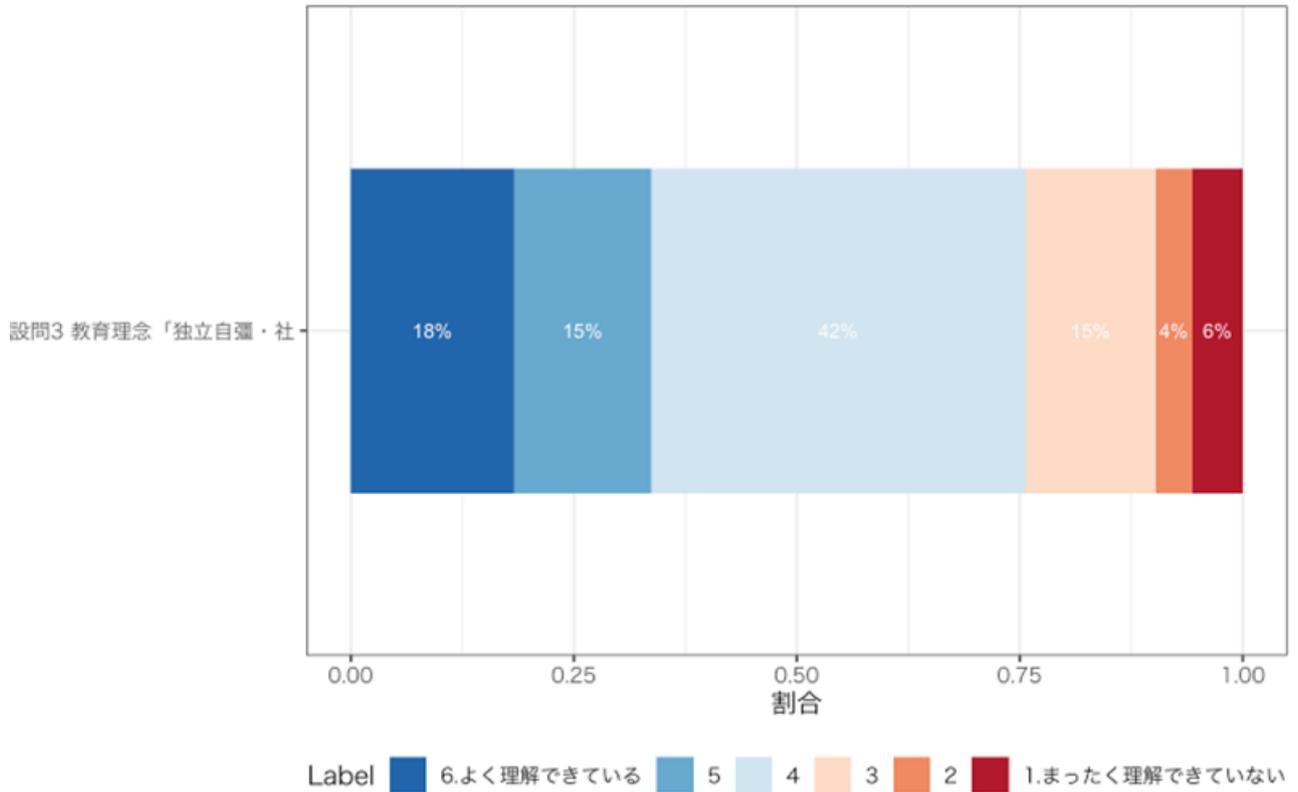
【比率】



設問 3. あなたは、追手門学院大学の教育理念である「独立自彊・社会有為」の意味について理解していますか。

項目	6.よく理解できている	5	4	3	2	1.まったく理解できていない
設問3 教育理念「独立自彊・社会有為」に対する理解度	290	244	665	232	65	90

【比率】

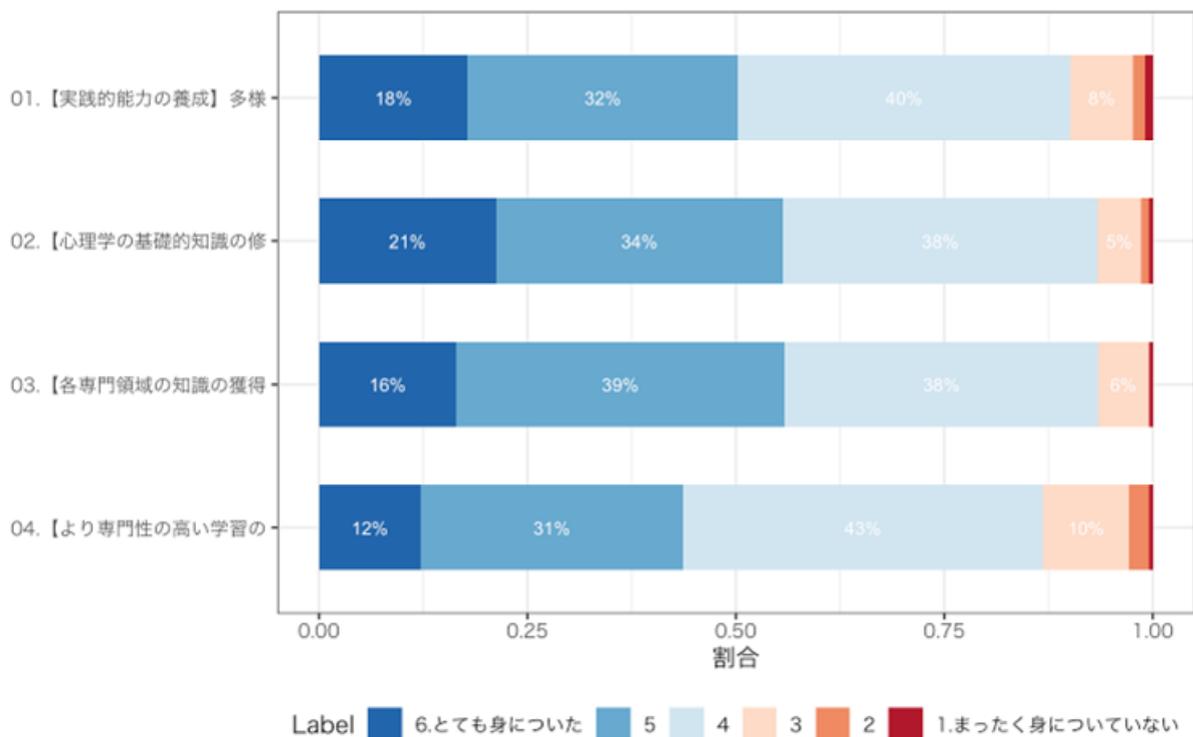


設問 4. ○○学部では、あなたが卒業時に身につけてほしい能力として以下のものを教育方針として掲げています。あなたは入学時点と比較してどの程度身についたと思いますか。

<心理学部心理学科>

項目	6.とても身についた					1.まったく身につけていない	
	5	4	3	2	1	0	
01.【実践的能力の養成】多様な考え方を受容し、心理学を学ぶことによって培われた「思考力」、「想像力」、「分析力」等を用いて、社会や個人の抱えるさまざまな課題に自律的に取り組み、それらに対して客観的かつ論理的に対処する能力を涵養する。	38	69	85	16	3	2	
02.【心理学の基礎的知識の修得】心理学を学ぶために必要な基礎的知識ならびに研究法を習得することで、客観的な視点から人間の行動や心を考察し、科学的かつ批判的な思考を行うことができる能力を身につける。	45	73	80	11	2	1	
03.【各専門領域の知識の獲得】心理学の各専門領域の知識と技術を学ぶことで、心理学的なものの見方や考え方を実社会に応用し、さまざまな価値観を有する個人や集団と柔軟かつ生産的な関係性を構築するための力を身につける。	35	84	80	13	0	1	
04.【より専門性の高い学習のための基礎能力の養成と近接領域の知識の獲得】心理学と関連性の深い他領域の知識を積極的に学ぶとともに、より専門性の高い学習を行うための基礎となる知識や語学力を身につける。	26	67	92	22	5	1	

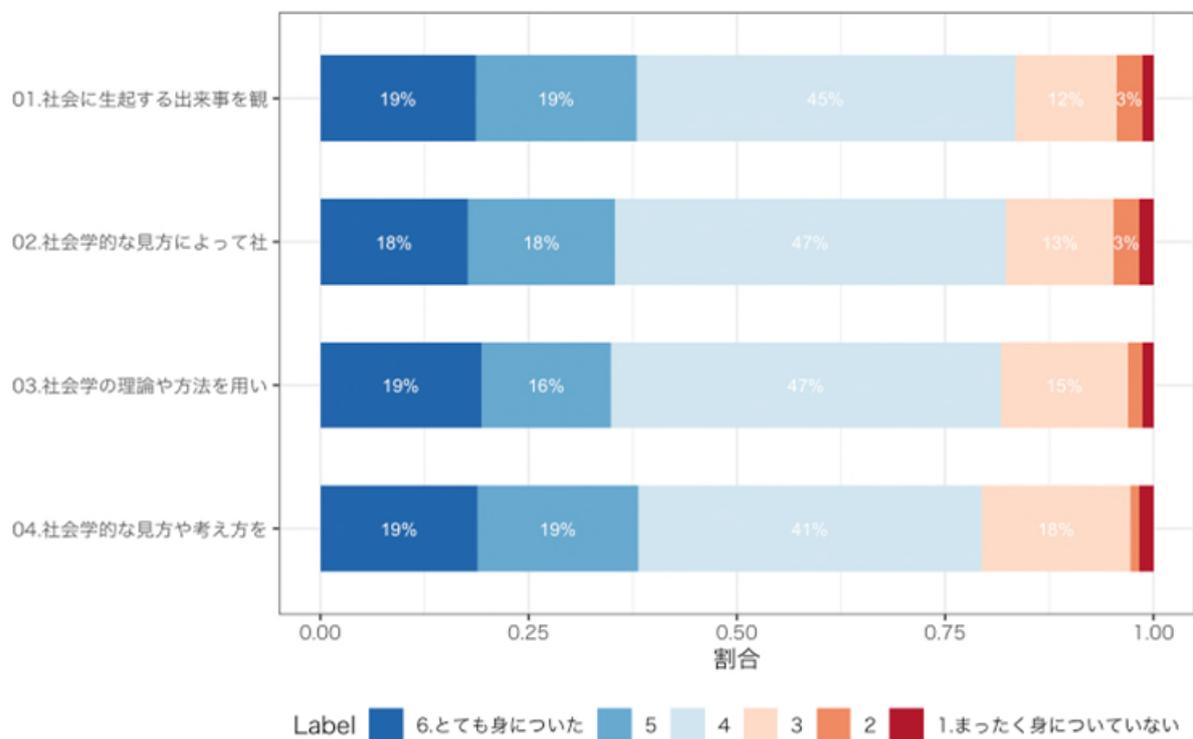
【比率】



## <社会学部社会学科>

項目	6.とても身についた					5			4		3		2		1.まったく身についていない	
	6	5	4	3	2	1	0	6	5	4	3	2	1	0		
01.社会に生起する出来事を観察してそこから課題を見出し、社会学の知見を生かして考察して自分なりの解決策や企画を提示することができる。	55	57	134	36	9										4	
02.社会学的な見方によって社会全般および身近な組織や地域を理解し、それを踏まえて自分の役割を考えることができる。	52	52	138	38	9										5	
03.社会学の理論や方法を用いて具体的な社会事象や人間関係を把握し、そこから自分の考えなどを言語表現、身体表現を通じて的確に伝え、よりよい社会関係を構築することができる。	57	46	138	45	5										4	
04.社会学的な見方や考え方をより広い分野で応用するための知的な蓄積を持つことができる。	55	56	120	52	3										5	

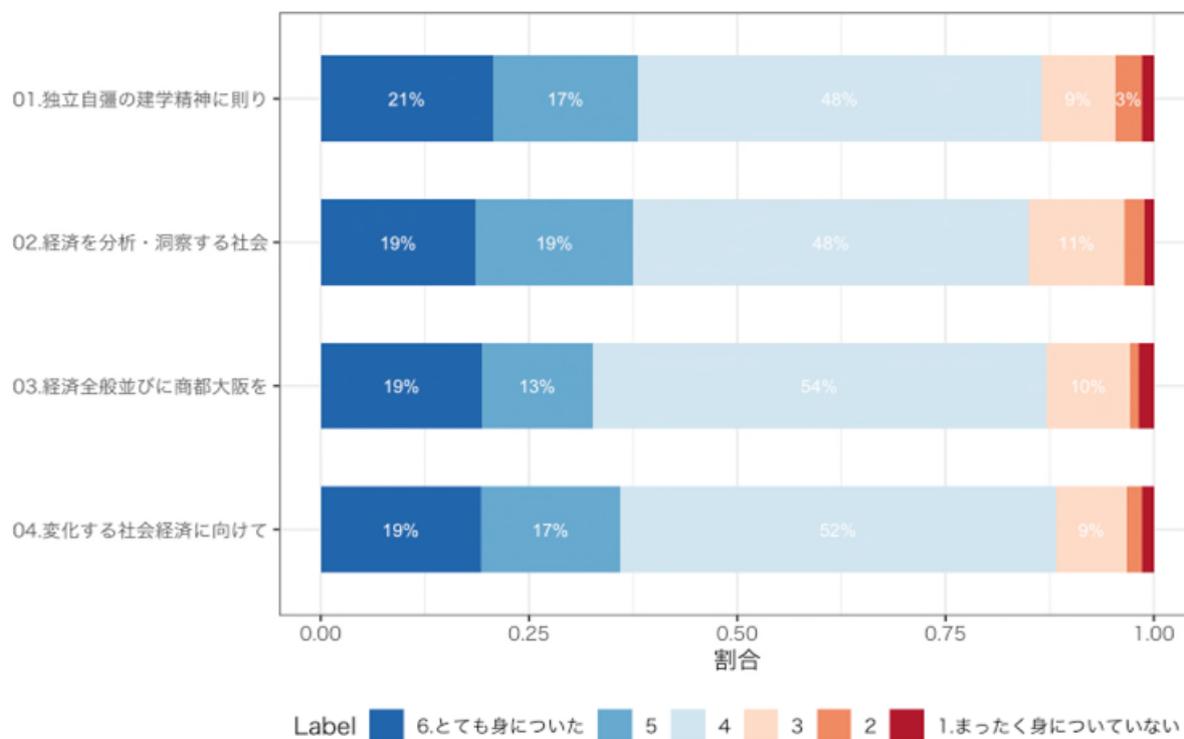
【比率】



<経済学部経済学科>

項目	6.とても身についた					1.まったく身についていない				
	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
01.独立自強の建学精神に則り、社会に貢献するキャリアに進進できる	58	49	136	25	9					4
02.経済を分析・洞察する社会科学の方法を修得し、駆使できる	52	53	133	32	7					3
03.経済全般並びに商都大阪をはじめ、永く関わる社会事象に関する専門知識を吸収して、活用できる	54	37	152	28	3					5
04.変化する社会経済に向けて、学識を基にした先取的な提案を行い、実践する力を発揮できる	54	47	147	24	5					4

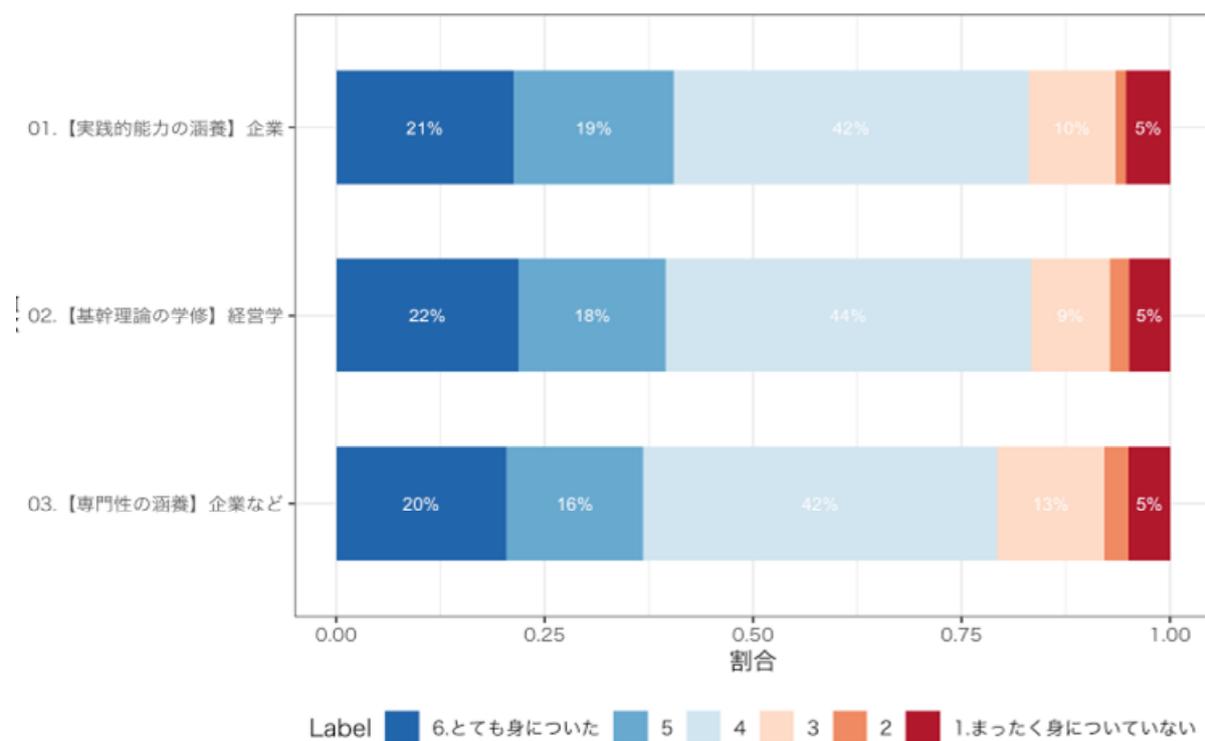
【比率】



<経営学部経営学科>

項目	6.とても 身についた					1.まったく身に ついていない
	5	4	3	2		
01.【実践的能力の涵養】企業などの組織が直面する問題を体験的かつ協働的に学び、学修した理論や知見をビジネスの場面で活かすための力を身につける	65	59	130	32	4	16
02.【基幹理論の学修】経営学および関連領域の基幹的理論を学び、企業などの組織に関する現代的な問題を捉える検証力を身につける	67	54	134	29	7	15
03.【専門性の涵養】企業などの組織の問題を解決するために必要な専門的知識や理論を学び、組織の発展や改善に活かすことができる力を身につける	62	50	129	39	9	15

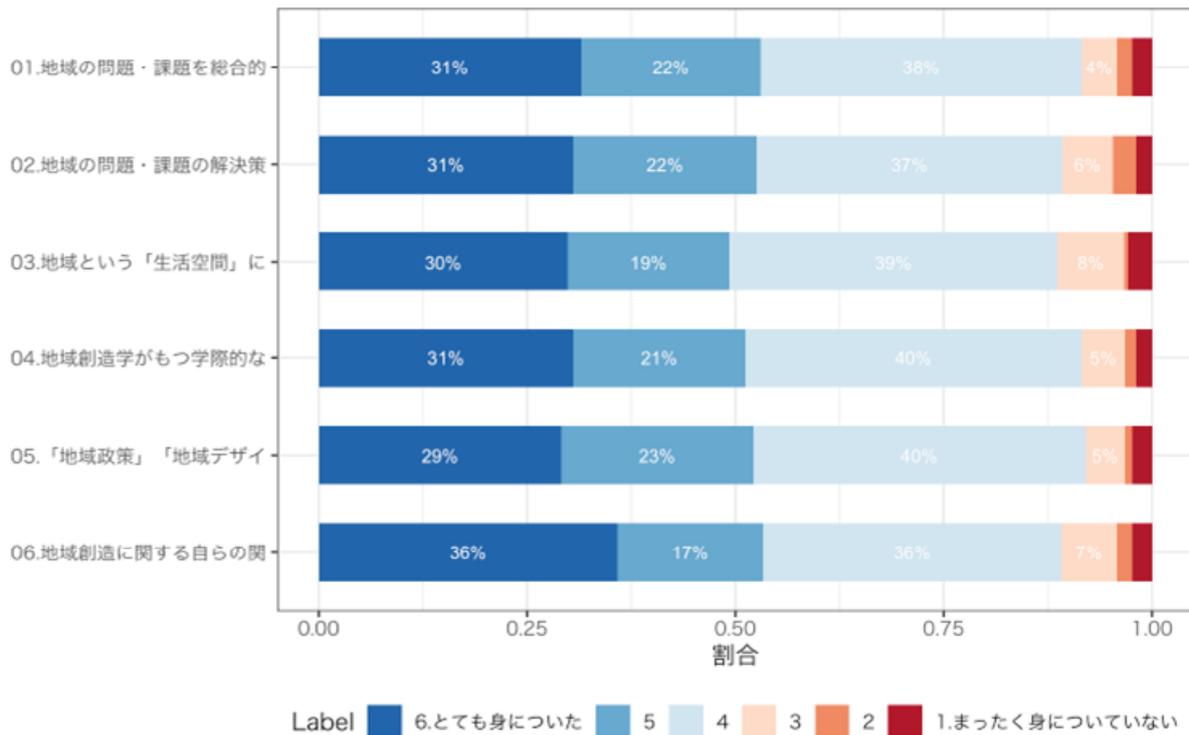
【比率】



<地域創造学部地域創造学科>

項目	6.とても身についた					1.まったく身についていない				
	6	5	4	3	2	1	0	0	0	0
01.地域の問題・課題を総合的かつ実証的に考察することができる。	67	46	82	9	4					5
02.地域の問題・課題の解決策を、主体的に他者との交流・連携・協働の中で構想し、適切な方法で調査・分析・検討をした上で、他者に向けて効果的に発信することができる。	65	47	78	13	6					4
03.地域という「生活空間」に関係する制度や法、政治、経済、行政、文化などに関する知識と技能を修得している。	63	41	83	17	1					6
04.地域創造学がもつ学際的な性格を理解し、幅広い教養を身につけている。	65	44	86	11	3					4
05.「地域政策」「地域デザイン」「観光」「食農マネジメント」の観点から、地域再生や地域振興、地域活性化に関する専門的な理論や知識を修得している。	62	49	85	10	2					5
06.地域創造に関する自らの関心領域を拡大することができる。	76	37	76	14	4					5

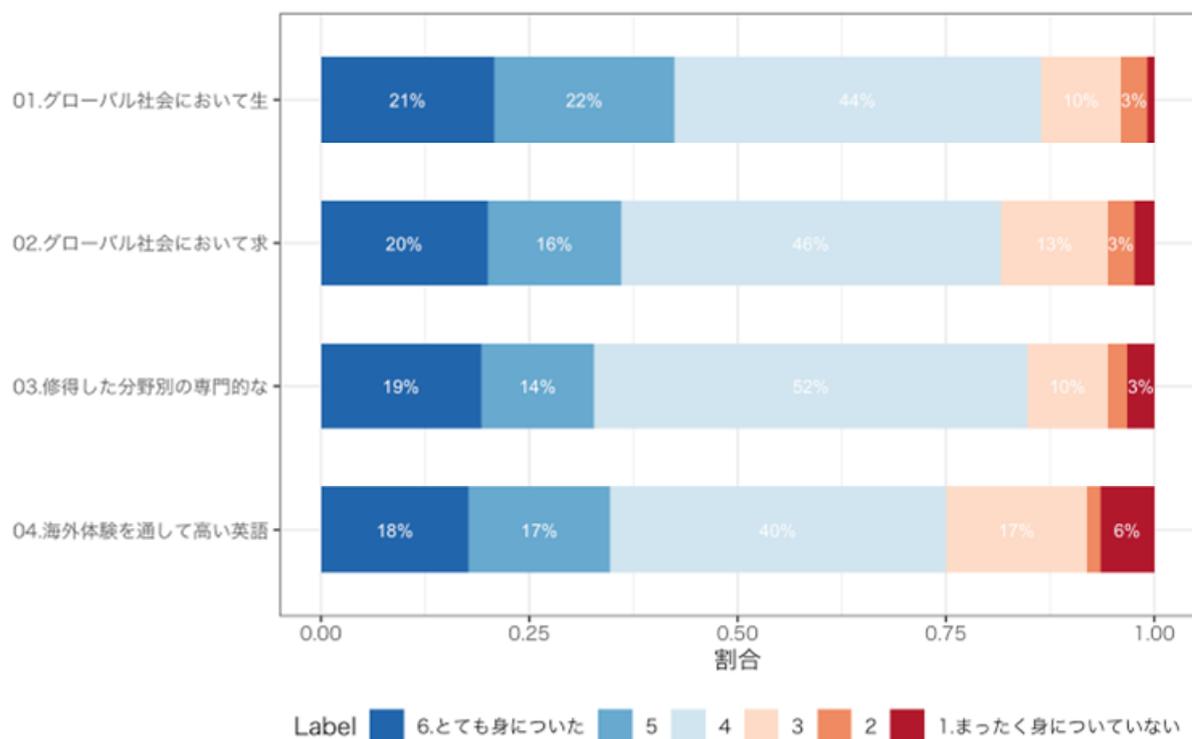
【比率】



<国際教養学部国際教養学科>

項目	6.とても身についた					1.まったく身についていない				
	5	4	3	2	1	5	4	3	2	
01.グローバル社会において生じ得る問題を自らシミュレーションし、獲得したスキルを活かしてその解決策を論理的かつ能動的に導き出すことができる。	26	27	55	12	4	1				
02.グローバル社会において求められる英語のスキルを基礎から応用までバランスよく習得し、グローバルな場において積極的に英語で相手とコミュニケーションを図ることができる。	25	20	57	16	4	3				
03.修得した分野別の専門的な知識と技能をグローバル社会において応用的かつ実践的に用いることができる。	24	17	65	12	3	4				
04.海外体験を通して高い英語運用力を身に付け、同時に異文化の受容と自国文化の理解を深めることができる。その上で、英米の歴史・文化・文学、及び英語学の知識を獲得し、英語教育の現場等においてそれらを応用的に用いることができる。加えて国際的な観点から、総合的かつ相対的に日本文化を眺めることができる。	22	21	50	21	2	8				

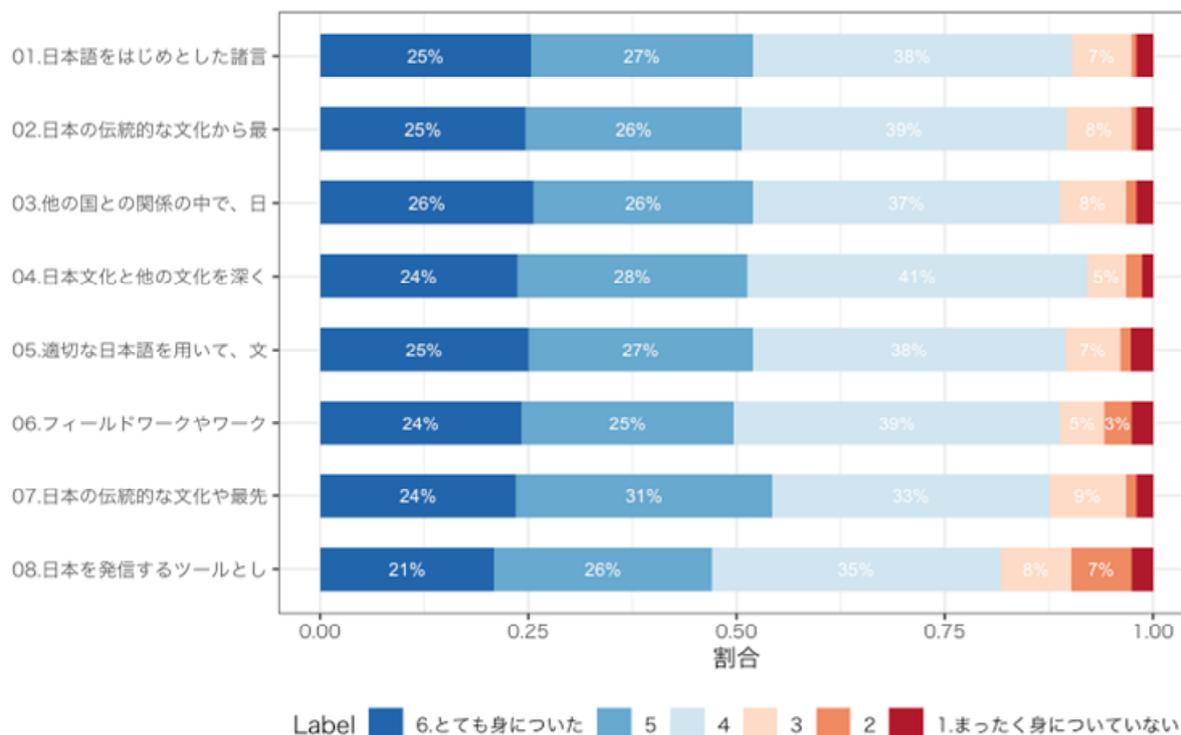
【比率】



<国際教養学部国際日本学科>

項目	6.とても身についた					5		4		3		2		1.まったく身につけていない	
	6	5	4	3	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
01.日本語をはじめとした諸言語について深く理解し、適切に運用することができる	39	41	59	11	1										
02.日本の伝統的な文化から最先端の文化まで深く理解し、説明することができる	38	40	60	12	1										
03.他の国との関係の中で、日本文化を見つめなおし、その価値や意義を客観的に考えることができる	39	40	56	12	2										
04.日本文化と他の文化を深く知るにより、様々な国際問題について自分自身の見解を持つことができる	36	42	62	7	3										
05.適切な日本語を用いて、文章および口頭にて自らの考えを円滑に表現することができる	38	41	57	10	2										
06.フィールドワークやワークショップを通じて、自分自身で課題を発見し、これを適切な方法で調査・分析・検討したうえで、他者に向けて効果的に発信することができる	37	39	60	8	5										
07.日本の伝統的な文化や最先端の文化を、文化の異なる人々へ発信する意欲を持つことができる	36	47	51	14	2										
08.日本を発信するツールとして、日本語以外の言語を積極的に学ぶ意欲を持つことができる	32	40	53	13	11										

【比率】



設問 5. 追手門学院大学の学生生活を振り返り、どの程度満足していますか。

項目	6.満足	5	4	3	2	1.不満足
01.学業面の満足度	348	383	590	170	46	46
02.課外活動の満足度	335	254	576	211	99	108
03.施設・制度・対応の満足度	305	277	640	217	82	64
04.進路の満足度	433	333	572	148	52	43
05.交友関係の満足度	459	274	504	188	74	84
06.（以上を踏まえた）学生生活の総合的な満足度	431	362	560	136	49	46

【比率】

